

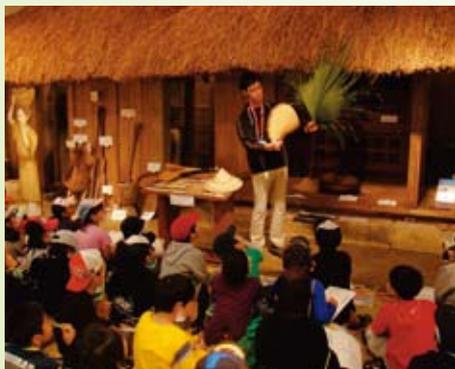
はくぶつかんの 部屋 11

～学校と博物館の連携～



朝夕になるとめっきり冷えてきました。博物館では小学校の社会見学の子ども達の元気な声が響いています。入館料が無料なので宜野湾市内はもちろん、近隣の市町村の小学校からも利用していただいています。

博物館では教育普及活動の一環として、教室では学ぶことが難しい「昔のくらし」を学習する社会見学や総合学習のお手伝いをしており、現在では数少なくなった民具を実際に見て、触れて体験することができます。学校によって授業の目的や内容に違いがあるので、事前に先生方と直接お会いして話し合い、授業の目的に合わせて内容や紹介する民具を一緒に決めていきます。昨年度は二市一町二村から合計9校、約一、〇〇〇人の児童・生徒が来館しました。



▲博物館で行った社会見学

ちなみに、学習時間の関係で希望の民具の体験ができなかった場合、改めて来館していただければ職員が個別に対応しており、学習直後の休日に体験を希望する子どもが、家族と一緒に来館することも珍しくありません。

また市内でも、博物館から遠方のため授業時間内に総合学習ができない学校があります。そんな場合、市内の小中学校を対象に「博物館出前講座」と題して、博物館職員が民具を携えて学校で授業を行っています。昨年度は8校、約一、〇〇〇人が学習を行いました。



▲普天間第二小で行った出前講座

このように博物館では、学校と連携して授業のお手伝いをしています。社会見学や出前講座についてご質問やご相談がありましたら、お気軽に博物館までご連絡ください。

問合せ

市立博物館 ☎870-9317

茶

くわーゆんたく

104

家族の守り神 火の神

みなさんの家の台所には火の神を祀っていますか？

火の神は元来、かまどそのものを拝んでいましたが、やがてかまどをかたどった3個の石に変わり、現代ではそれが陶製のウール(香炉)となったようです。

火の神が天にのぼって家庭内の1年の出来事を報告し、また天からおりてくる、という考え方は中国の竈神信仰かまどに由来するとい

われており、宜野湾では、旧暦12月24日に天にのぼり、正月元旦早朝に戻ってくると伝えられています。天にのぼる日の祈願は1

年間の豊作、無病息災などのお礼が主です。以前は、「天への報告は良いことだけを報告し、悪いことは報告しないで下さい」と頼む

ことが多かったようですが、現在ではこのような拝みは少なくなりました。

旧暦12月24日は御願解ウツシトマきと同じ日となるため、一緒に祈願することも多いようです。

また、天にのぼる祈願を行わない地域もあるようです。

火の神を祀っている家では、毎月旧暦の一日・十五日にその家の主婦が供物を供え

て、家族の健康と家庭円満、一家の繁栄を祈ります。また、その日以外でも家族に嬉しい事、祝いの事があった時や悲しい事、困った事があった時などにも火の神に手を合わせ報告します。

そういったことから、火の神は家族を見守る神として今でも信仰され続けています。



ヒヌカン 火の神(新城)

『宜野湾市史』への問合せ

文化課 市史編集係(市立博物館内)

☎870-9317